

診断士にいがた SOUP LETTER

発行／一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

第27号／令和4年3月

URL <https://www.n-smeca.jp/>

TEL 025-378-4021

FAX 025-378-4022

ポストコロナの明るい未来に向けて

一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

会長 土田 正憲



日頃は当協会の活動にご協力いただきありがとうございます。
ございます。

先日、アトツギ甲子園を観戦しました。アトツギ甲子園は、中小企業庁が主催する、中小企業のアトツギ（後継者・後継者候補）が新規事業のアイデアを競うピッチイベントです。15社のアトツギが与えられた4分間で新規事業アイデアをプレゼンテーションする。それは先代から受け継いだ経営資源を活用して新たな事業を立ち上げる「ベンチャー型事業承継」につながるものです。最優秀者には中小企業長官賞が授与されました。

世界的流行となった新型コロナウイルス感染症は日本経済に未曾有の事態を招き、中小企業に大きな打撃を与えています。日本で初めて感染が確認されてから2年以上が経ったものの、未だにまん延防止等重点措置が適用される都道府県があるなど状況は変わっていません。このような中にお

いて、熱心に新規事業のアイデアを披露するアトツギの姿を見て、その存在は日本の経済に、未来に光を照らすものであり、そして、中小企業にはまだまだやれることはたくさんあると思った次第です。

さて、令和3年度が終わろうとしています。当協会は今年度、以下の基本方針を掲げて事業を実施してまいりました。

○令和3年度 基本方針

- (1) 会員の協会活動の参加促進
- (2) 会員のコンサルティング能力の向上
- (3) 外部機関・他団体との連携強化
- (4) 中小企業診断士ならびに新潟県協会の認知度の向上
- (5) 会員の拡大
- (6) コンプライアンスの徹底

上記のうち「(6) コンプライアンスの徹底」については「コンプライアンス宣言」を制定し、協会会員が診断士業務を遂行するうえで順守すべき行動規範を定めました。さらにコンプライアンス研修の受講を推進し、当協会の受託事業に従事する場合にはこの研修の受講を義務としました。

経済産業省は令和4年3月に、中小企業のコロナ禍での資金繰り対策、ポストコロナを見据えた収益力改善・事業再生・再チャレンジを促す支援策を展開する「中小企業活性化パッケージ」を策定しました。これに伴い中小企業診断士の役割はますます大きくなることが予想されます。行政や支援機関などとの連携を密にして、明るい未来を築くために鋭意取り組んでまいります。

協会活動報告

「中小企業診断士の日」関連イベント報告

広報委員会

令和3年11月24日、朱鷺メッセにおいて「中小企業診断士の日」関連イベント「中小企業診断士による無料個別相談会」を実施しました。

当日は、5事業者に対し、資金繰り、助成金申請、事業提携、事業の再構築などの相談対応を行いました。

会場にてフォローいただきました広報委員会の皆様、相談員としてご協力いただきました会員の皆様、本当にありがとうございました。



委員会報告

総務委員会

委員長 岡田 正博

おとしからコロナの影響で大きな会合を開催できず、この会報にも4回くらい連続で「総務委員会の仕事がほとんどない」と書いてきました。

総務委員会は通常であれば、事務局と連携して定時社員総会の運営や新春講演会・新年会の開催を担当しています。つまり、コロナ蔓延で会合がなくなってしまうと、ほとんど何もやることなくなるのです。

まあそれでもラクしてるならいいじゃないか、という意見もありましょうが、いえいえ、実は非常に困ったこともあります。そうです、この会報で報告すること・書くことがないのです。ここまで「なぜ意味のないことをダラダラ書いているのだろう」と思ったあなた、つまりそういうことなんですよ。

令和4年度はなんとかコロナの収束を迎えて、協会員の交流を図りたいものです。

研修委員会

委員長 平野 康晴



研修委員長の平野康晴です。本年度も研修委員会の活動にご協力を賜り、大変ありがとうございました。

研修委員会では、以下の活動を実施し、成功裏に収めることができました。

- ① 第1回理論政策更新研修(新潟会場)の企画・運営
- ② 1次試験受験対策講座の企画・運営
- ③ コンプライアンス研修受講の推進

所期の目的を達成できましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

実を言えば、上記以外にも会員向けの研修を企画しておりました。しかし、オミクロン株の流行を受け、開催を断念したいささつがあります。こちらは来年度に持ち越しとなりますので、楽しみにお待ちしております。

事業開発委員会

委員長 和栗 聖



平素は、事業開発委員会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。令和3年度の事業開発委員会は、前年度から引き続き金融機関および中小企業支援機関との連携強化を主な方針として、新型コロナウイルスの収束が見通せないなか、各種事業登録の協会会員専門家派遣運営管理を実施してまいりました。

次年度も引き続き、委員会活動を実施していきますので、我こそは次年度こそ事業開発委員で共に汗をかき活動したいという会員の皆様、まずはお気軽に私あてまでご連絡をお待ちしております。

広報委員会

委員長 佐野 盛也



いつもお世話になっております。本年度、当委員会では、広報誌「診断士にいがたSOUP LETTER」の発行（年2回）・ホームページの運営（情報発信・会員名簿のメンテナンス）・「中小企業診断士の日」

関連イベント（別途記載）の運営を行いました。

■ 広報誌「診断士にいがたSOUP LETTER」

協会、研究会、青年部会の活動を中心に記事にしました。

■ ホームページ（HP）の運営

HPによる情報発信の頻度向上の他、会員紹介ページの定期的なメンテナンスを行いました。また、当協会の会員が執筆する帝国ニュースの掲載を行いました。

ご多用の中、広報委員会活動にご協力いただきました会員の皆様、広報委員会の皆様、本当にありがとうございました。

研究会報告

事業承継・中小M&A研究会

代表 土田 正憲

今年度、当研究会では以下のとおり研究会を開催いたしました。

○ 第1回（5月13日）

テーマ：「中小M&A支援の基礎知識」

講師：土田克則会員

○ 第2回（11月5日）

テーマ：「M&Aプラットフォームと第三者承継の推進」

講師：(株)バトンズ 松木秀一郎氏

上記のほか、8月28日には「中小企業の事業承継支援」をテーマとして理論政策更新研修を企画・運営いたしました。来年度は、会員、講師等とのより深い交流ができるよう取り組みます。

企業再生支援研究会

代表 上村 修

今年度は計3回研究会活動を実施しました。

第1回目は、昨年7月17日に小山直久会員から、コーチングをテーマにした講演を開催。

第2回目は、昨年12月3日に新潟県信用保証協会 企業支援課長の川島和紀様から、コロナ禍における信用保証協会の取組みについて講演を行って頂きました（研究会後に懇親会を開催）。

第3回目は、本年2月26日にリモート形式で開催。首都圏を中心に活躍されている藤本隆幸診断士（下記写真）から支援人材のスキルアップと事例研究をテーマに講演を行って頂きました。



来年度も今年度同様に、実務に役立つ研究会活動を展開したいと考えております。

実務従事ポイント研究会

代表 平野 康晴

実務従事ポイント研究会代表の平野康晴です。研究会員への企業診断機会の提供とコンサルティング能力向上のため、今年度も診断実習を実施しております。（本原稿執筆時点で継続診断中。）

診断実習先は、三条市にある食品小売業の会社。若くて成長意欲・事業拡大意欲の高い社長が経営する会社です。実習メンバーは5名。指導員は土田正憲先生に務めていただいています。

11月下旬に初回ヒアリングを実施。高品質なアウトプット（報告書、診断・助言）を提供すべく、ミーティングや、メンバー各自が調査検討を重ねております。

どのような報告書が出来上がり、どのようなプレゼンテーションが展開されるのか、大変楽しみです。

青年部会報告

青年部

代表 長谷川 貴一



青年部会の長谷川です。本年度は、新型コロナウイルスで活動が制限される中でも可能な限り、できることを青年部会メンバーで協力して行ってきました。他団体との交流事業や連携して行う事業

に参画することで、青年部会メンバー間でたくさんコミュニケーションが生まれました。一方、途中から参加する方や毎回参加できない方にとってはなかなかどのような動きをしているか分かりづらく、青年部会活動に参加しづらかったのかもしれない。

来年度は、引き続き他団体と行う事業も継続していくことに加え、青年部会本来の趣旨である、会員相互の交流や情報交換、勉強会を企画していきたいと思えます。本年度ご協力いただきました青年部会メンバーや関わった方に心から感謝申し上げます。

診断士になりたい人を支援する会報告

中小企業診断士になりたい人を支援する会

代表 土田 克則

当会は、中小企業診断士を目指す人たちの接点の場、その人達と協会に所属する現役診断士との接点の場を提供することを主な目的として、活動しております。

昨年度に続いて、新型コロナウイルスの影響を口実に、休会状態を続けておりましたが、第1次試験と第2次試験の間に、慌てて「2次試験問題の解き方を研究する会」を開催いたしました。

今年度の2次試験で、今年の参加者から1名、過去の参加者から1名、追跡調査が十分ではないので、他にもいるかもしれませんが、合格者が誕生しました。

この会の支援も、少しは役に立ったのでは？と勝手に喜んでいきます。



※研究会の様子

クリップボード

◆令和4年5月28日(土)
第10回定時社員総会
於：新潟グランドホテル

編集後記

広報委員会

広報誌の執筆にご協力を頂きました皆様、広報誌の発行のため、校閲・編集作業・最終確認にご尽力いただきました広報委員会の皆様、土田事務局長、本当にありがとうございました。おかげさまで無事に「SOUP LETTER 第27号」を発行することができました。改めて感謝申し上げます。

最近ですが、親の行動と子供の行動の関係を考えることが増えました。

子供の服が部屋に脱ぎっぱなしになっていて、「イラっ」としたとき、ふとその横を見ると自分も服を脱ぎっぱなしにしていたり、「疲れた～」という言葉を発する子どもに「若いのに元気がないな」と思うと、自分が口癖のように「疲れた、疲れた」と言っていたりしているようです。

「相手は変えられない、変えることができるのは自分」と言われますし、「子は親の鏡」とも言われます。子どもの躰・行動を直す前に、まず自分の躰や行動を見直すことが必要と思う日が多くなっています。本当に育児は育自です・・・。